

| | |
|---|--|
| Project 35 | 地域教育専攻 Enjoy Study プロジェクト ～いっしょにあそぼう いっしょにまなぼう～ |
| メンバー | [学 生] 富樫 美空 / 渡邊 愛子 / 茶木 優奈 / 小岩 眞渚 / 中島 眞子 / 熊田 千紘 [担当教員] 長尾 智絵 |
| <p>【背景】 市内の校長先生の講話より、オンラインの発達によって児童の遊びもオンラインが中心となっている現状を知り、ものづくりの経験が減ってきているのではないかと考えた。ものづくりの活動を通して「創造力・思考力・独創力」の育成を目指した。そして、前期の最後の活動の際、児童から身体を動かした活動をしたいとの要望があったため、思考力に焦点を当てるとともに主体性の育成を図る活動を実践した。</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●前期 「紙ひこうき作り」を通して、実物に触れさせて実際に経験する場を作り、児童の創造力・独創力・思考力の育成を目指す。 ●後期 各回、児童が身体を動かしながら、自ら思考し、新しいものやルールを作り出す活動を通して、主体的に活動に取り組むことを目指す。 <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●前期「各回の目的に合わせた紙ひこうき作り」 「紙ひこうき作り」の活動を通して、実物に触れさせて実際に経験する場を作り、児童の創造力・独創力・思考力の育成を図ったテーマを毎活動それぞれに設定し、全4回を通して紙ひこうき作りを行った。 ●後期「各回の目的に合わせた身体を動かすゲーム活動」 各回、児童同士が話し合える場を作り、活発なコミュニケーションを図ったテーマを毎活動それぞれに設定し、全5回を通して児童が思考しながら主体的かつ協力して取り組むことができるゲーム活動を行った。 | |
| <p>【プロセスと成果】</p> <p>前期は、各回の目的に合わせた紙ひこうき作りを中心に活動を行った。1回目は、グループごとに紙ひこうきを作り、自分の好きなようにデザインした。はじめに作る紙ひこうきは近くにいた学生のデザインを参考にしていた児童が多かったが、2回目以降は個性があふれるデザインが多く見られた。2回目は、5種類の折り方を試し、どの折り方が一番飛ぶのかを試行錯誤しながら「作って飛ばす」を繰り返し行った。より遠く、より速く飛ばすため、「○番の紙ひこうきがよく飛ぶらしいよ！」や「ぼくの良く飛ぶ投げ方を教えるね！」など児童同士で声をかけあう姿が見られた。3回目は、新聞紙やセロハンなど様々な素材を用いて紙ひこうきを作って飛ばし、飛んだ距離を比較した。折りづらい素材のセロハンは、テープでとめるなどの児童の工夫が見られた。4回目は、オリジナルの紙ひこうきの作成・ゲームを行い、児童の笑顔が多く見られる活動になった。</p> <p>後期は、一つの活動に特化するのではなく、児童が主体的かつ協力して取り組むことができるゲームを通して児童が身体を動かしながら自ら思考し、新しいものやルールを作り出す活動を通して児童同士のコミュニケーションを図り、主体的に活動に取り組むことを目指してプロジェクトを実施した。1回目はグー・チョキ・パーをどのように動物で表現するかを考えてもらい、児童が表現したい動物・表現方法を積極的に意見していた。2回目は話し合いの時間を設け、オリジナルのルールや作戦を話し合い、チームの友だちと協力して障害物リレーを行った。児童同士で主体的に話し合う様子が見られた。3回目は時間や人数の条件を変えながら、複雑に交じり合った手を条件の中でどのようにほどこか、児童たちのみで試行錯誤しながら考える活動を行った。学生の助言なく自ら話し合いを進行する児童や、お互いの良い所や自分の意見を積極的に発言するなど、児童一人一人の主体性が見られた。4回目の「私は誰でしょうゲーム」は出題者、解答者を共に児童にすることで主体的にゲームに参加してもらうようにした。ここでも児童たちが進んで順番を決める姿が見られた。5回目は目標を設定し、その目標を達成するためにはどのように道具を活用できるか、人数の工夫はどうするかと考えるゲームを行った。</p> | |



【風船ゲームをする様子】



【No.1 オリジナル紙ひこうきを飛ばす様子】

【総括と反省・今後の課題】

前期のプロジェクトの総括として、「創造力」、「独創力」、「思考力」の3つの観点でまとめた。「創造力」に関しては、紙ひこうきを飛ばす方法について児童間で共有する姿が多く見られた。2つ目の「独創力」に関しては、第1回・第4回が特に、ペンで書く・折り紙やシールで貼るなど、自分のオリジナルのデザインをする様子が見られた。そして、「思考力」に関しては、児童が遠く飛ばしたい、狙ったところに飛ばしたいという自分の理想に沿って紙ひこうきの折り方を試行錯誤する姿が見られた。反省として、各回の目的を児童に明確に意識づけることの不足が挙げられた。このことから、後期は児童に目的意識をもたせるために、学生が事前に十分な説明を行い、児童が活動全体に主体的に取り組むことができるようにすることが必要だと考えられた。

後期の総括として、「思考力」、「主体性」の2つの観点でまとめた。「思考力」に関しては、児童のユニークな視点が各回を追うごとに見られるようになり、児童自身がそれぞれの活動に目的意識をもって臨んでいた。「主体性」に関しては、児童全員が意見を積極的に言う姿が見られただけでなく、はじめは学生対児童だった話し合い活動も、学生が黒子に徹することで児童同士が主体的に話し合う姿が見られた。反省として、活動に夢中になるあまり、児童自身の時間管理ができていなかったため、環境を整える必要があった。

話し合い活動をする際、話し合いをまとめる児童がいる・いないとでは話し合いの進み具合やまとめ方に差が見られた。今後進級していくにあたって、グループ活動や話し合い活動が増えると予想される。児童自身が相手の意見を受け止めつつ、自身の考えも伝えることができる力を身につけることが今後の課題である。

【地域からの評価】

成果発表会では、以下のような評価をいただいた。

- ・「前期では大学生の提案を受け入れて活動する子どもたちが、後期には主体性を垣間見せてきたことに、大きな成長を感じました。」
- ・「話し合いの場面で学生対児童となった時に、児童同士で話し合えるように、声掛けや立ち位置の工夫などを行ったと聞いて、その場での対応力がすごいなと思った。」
- ・「学生が主役なのではなく児童が主体性を持ってアクティビティを行うという意識が後期の活動には一貫して感じられた。」
- ・「運営する上で参加者の良心に依存できないのがその年齢層とコミュニケーションを取る上での難しいところであると感じましたが、「イエローカード」等の柔らかく理解しやすい単語を用いて効果的に活動に参加させていたのはとても興味深かった。」

【年間スケジュール】

■前期

- 5/25 第1回「色々な紙ひこうきを作り、かわいく、かっこよくデザインしてみよう」
- 6/ 8 第2回「遠く速く飛ぶ紙ひこうきを考えてみよう」
- 6/22 第3回「どの紙ひこうきが遠くに飛ぶか比べよう」
- 6/29 第4回「自分だけの”No.1オリジナル紙ひこうき”を作ろう」

■後期

- 10/19 第1回「じゃんけんであそぼう！」
- 11/ 2 第2回「みんなでつなごうハロウィンリレー！」
- 11/16 第3回「みんなならどうする？人間知恵の輪」
- 12/14 第4回「Let's think! クイズ大会！」
- 12/21 第5回「Let's think! 大運動会！」

